



羅針盤

大学時代の筆者



天野 博雄

Hiroo Amano

岩手医科大学医学部皮膚科学講座 教授

基本が大事，「射法八節」^{しゃほうはっせつ}

皮膚科へ入局したフレッシュャーズの先生方，皮膚科の世界へようこそ。これからさまざまな喜び，仕事の達成感，時に苦労を経験していくこととなりますが，そのようななかで本号がお役に立ってくれればと思っています。

さて，かなり昔になりますが，私は群馬大学医学部の学生時代，勉強を頑張っていたとはいえませんが，部活動の弓道についてはかなり修練しました。朝，お昼休み，夜と練習していました。医学部6年時には弓道4段を取得し，秋季関東大会にも出場しました。卒業試験や医師国家試験の勉強が疎かになってしまった感がありますが，当時はまだそれでも合格できるという時代でした。

弓道では弓矢を持って射を行います，そのための基本ルール，決まりごとがあり，「射法八節」といいます。ここでは詳しく述べませんが，弓道の初心者には，まず射法八節を理解し，修練することが肝要です。この基本をしっかりおさえておかないと自己流になってしまい，最初うまくても後々実力が伸びていかなることがあります。皮膚科も然りで，皮膚科としての決まりごと，基本があり，それをフレッシュャーズのうちにしっかり会得することが重要です。弓道ではどうやったらうまく弓が引けるか，先輩や先生からの指導を受けたり，上手な人の射を見て自分なりに修練していくのですが，「射法八節」が指南書として重要です。皮膚科診療においても指南書のようなものがあると上達が早いのではないのでしょうか？

本特集ではそのような指南書として，皮膚科の基本事項のみならず勉強方法，心構えまでをスペシャリストの先生にまとめていただきました。

私がフレッシュャーズのときは，本号のような特集はなく，先輩からの指導，同僚の間での情報などで学んでいました。それはそれで最高によかったのですが，やはりまとまった本があると自分でもっと工夫ができたかもしれません。

本号では，まず「Part 1. 診療の基本」をぜひ通読してください。解説1～10までになります。皮膚科医師として仕事を始めるとすぐに必要となるものばかりです。そして，くり返し読みながら，症例を学会で発表するような時期になったところで，「Part 2. 研究・論文」に進んでもらえればと思います。さらに論文の作成に取りかかるころには，先生によっては病棟の往診，出張病院での一人外来診療なども始めるかもしれません。そのような時期には，「Part 3. こんなときどうする？ 臨床現場の“困った”を解決！」を参考にしてください。入院させるべきかどうかの判断，全身の発疹・発熱の時の対応など，読むときっと役に立つことと思います。さらに，当直しているときに遭遇しがちな，術後出血，壊死性筋膜炎の切開のタイミングについても執筆いただいています。

今回は how to の傾向が強いですが，今はさまざまなよい教科書が盛りだくさんです。勉強法について知る機会があってもよいのではと思います。編集しました。みなさんのお役に立てば望外の喜びです。

最後に，本特集の編集の機会を与えていただきました編集委員の先生方，原稿執筆を引き受けていただいた先生方，(株)Gakken Visual Dermatology の編集部の方々にこの場を借りて心より御礼を申し上げます。